

令和6年度「全国学力・学習状況調査」の結果 —分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

区 名	此花区
学 校 名	大阪市立梅香小学校
学校長名	田辺 義朗

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和6年4月18日（木）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数）に関する調査」と「児童質問調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査内容

(1) 教科に関する調査

- ・国語
- ・算数

(2) 質問調査

- ・児童に対する調査
- ・学校に対する調査

3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全児童
- ・梅香小学校では、第6学年 41名

令和6年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

〔平均正答率〕

国語科は61％で、全国平均を6.7ポイント、大阪市平均を5ポイント下回った。
算数科は53％で、全国平均を10.4ポイント、大阪市平均を9ポイント下回った。

〔平均無回答率〕

国語科は2.3％で、全国平均を1.9ポイント、大阪市平均を1ポイント下回った。
算数科は4.3％で、全国平均を0.9ポイント、大阪市平均を1.1ポイント上回った。

分析から見えてきた成果・課題

教科に関する調査より

〔国語〕

今年度の結果を見ると、B「書くこと」に関する問題の正答率が比較的高く、大阪府の平均正答率と並んでいる。中でも、目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にすることができるかどうかをみる問題では、全国平均正答率を2.6ポイント、大阪府平均正答率を4.8ポイントも上回る結果となった。一方で、漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかをみる問題では、大阪府平均正答率と比較すると17ポイントも低い結果となった。

〔算数〕

A「数と計算」に関する問題の正答率が比較的高い結果となった。特に数量の関係を、□を用いた式に表すことができるかどうかをみる問題で、大阪府平均正答率に並ぶ結果となったが、一方で、求め方と答えを式や言葉を用いて記述できるかどうかをみる問題では、正答率が大幅に低くなった。

質問調査より

「学校に行くのは楽しいと思いますか」という質問では、85％が肯定的な回答をしており、大阪府、全国と比較して高い結果となっている。また、「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」の質問も、95％が肯定的な回答をしており、これも大阪府、全国よりも高い結果となった。一方で、「1日当たりどれくらいの時間、テレビゲームをしますか」という質問では、「4時間以上」と回答する児童が31.7％もあり、大阪府、全国よりも高い。また、SNSや動画視聴の時間も府、全国に比べて多い結果となっている。また、「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか」という問いに対する肯定的な回答は、63.4％となり、府、全国と比較すると低い結果となった。

今後の取組(アクションプラン)

国語では漢字や言葉のきまりに関する問題で、比較的正答率が上がっているものの、同様の問題であっても、文章を読み取ったうえで適切な漢字や言葉を書く問題では正答率が低い。このことから、文章を適切に読み取ったり、大切な部分に着目したりすることが十分にはできていないと考えられる。普段の授業では、教材文の内容をよみとることができる児童も、限られた時間内に正しく文章を読み取ることは難しい。今後は、新聞や図書等も活用し、初めて見る文章を素早く、適切に読み取り、要旨をまとめるような力も身につけていく必要がある。算数においては、問題文を読んで大切な数字や言葉に着目し、計算したり論理的に説明したりすることが必要である。また、グラフや表等、示された情報を基に、必要な数値を読み取る力も必要である。こうしたことから、問題文の大切な箇所に線を引きながら読む習慣を身につけ、グラフや表はその性質をしっかりと理解する必要がある。

また、基礎的・基本的な学力の向上を図るため、朝学習や家庭での学習時間を利用し、デジタルドリルに取り組む習慣をつけていくことも重要である。

児童への質問調査では、「学級の友達と話し合う活動を通じて自分の考えを深めたり、新たな考え方に気づいたりすることができているか」という質問で、肯定的な回答率が低かったため、授業の中で話し合う機会を多く取り入れていくようにする。

【 全体の概要 】

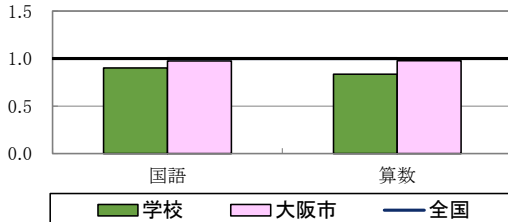
平均正答率（％）

	国語	算数
学校	61	53
大阪市	66	62
全国	67.7	63.4

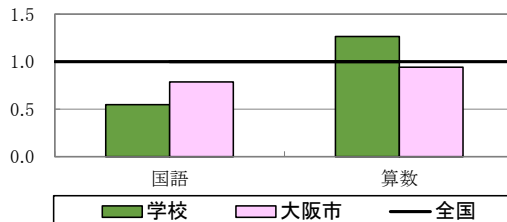
平均無解答率（％）

	国語	算数
学校	2.3	4.3
大阪市	3.3	3.2
全国	4.2	3.4

平均正答率(対全国比)



平均無解答率(対全国比)



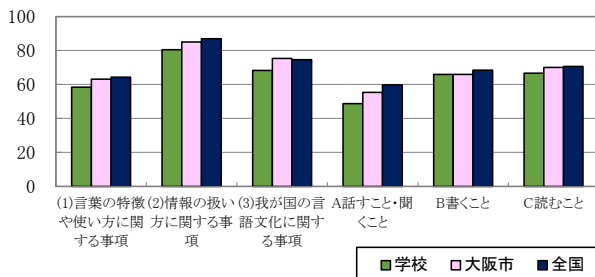
【 国 語 】

学習指導要領 の内容	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
(1)言葉の特徴や使い 方に関する事項	4	58.5	63.1	64.4
(2)情報の扱い方に 関する事項	1	80.5	85.0	86.9
(3)我が国の言語文 化に関する事項	1	68.3	75.3	74.6
A 話すこと・聞くこと	3	48.8	55.3	59.8
B 書くこと	2	65.9	65.9	68.4
C 読むこと	3	66.7	70.1	70.7

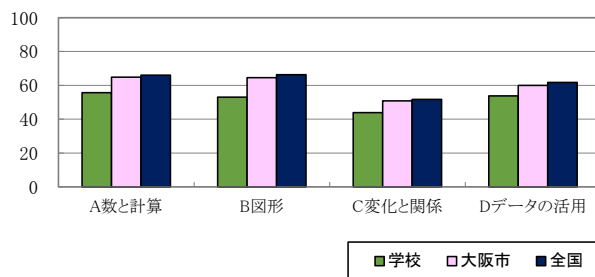
【 算 数 】

学習指導要領 の領域	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
A 数と計算	6	55.7	64.8	66.0
B 図形	4	53.0	64.6	66.3
C 測定	0			
C 変化と関係	3	43.9	50.8	51.7
D データの活用	4	53.7	60.0	61.8

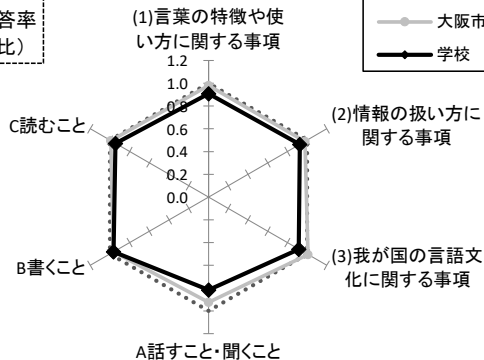
国語 内容別正答率(学校、大阪市、全国)



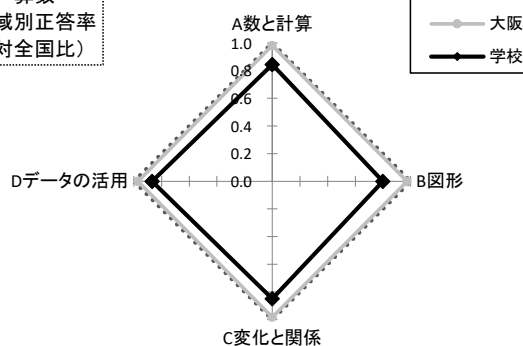
算数 領域別正答率(学校、大阪市、全国)



国語
内容別正答率
(対全国比)



算数
領域別正答率
(対全国比)



児童質問より

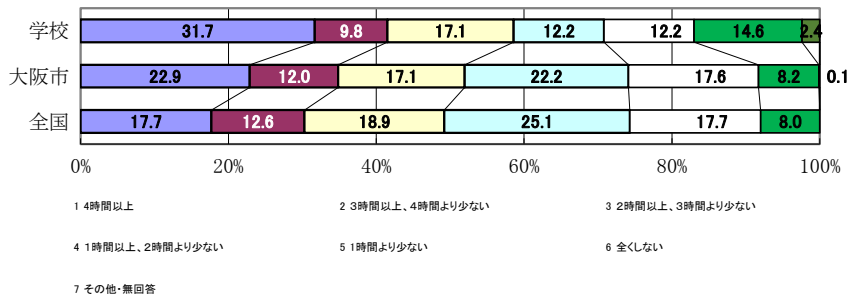
質問番号

質問事項

5

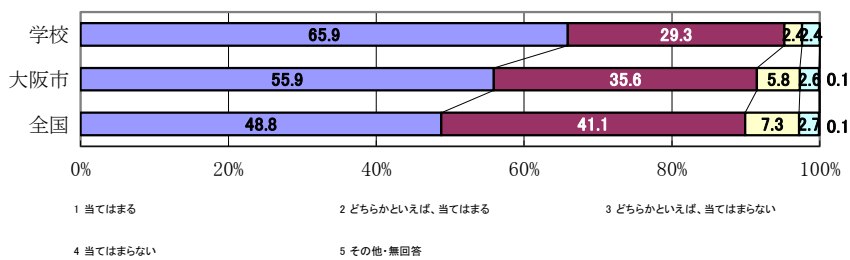
普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム(コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む)をしますか

1 2 3 4 5 6 7 8



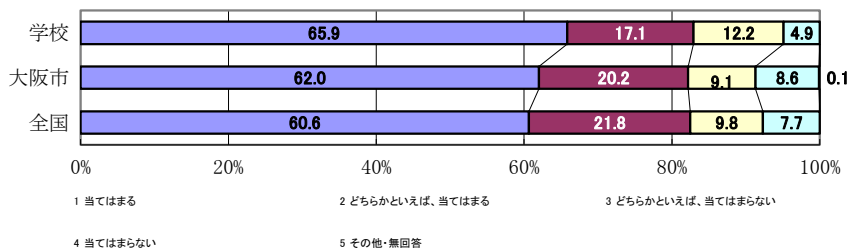
10

先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか



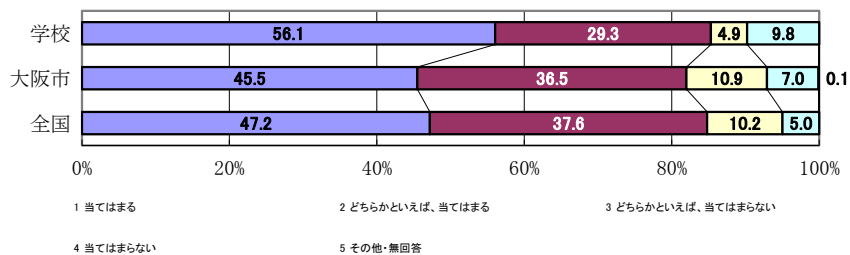
11

将来の夢や目標を持っていますか



16

学校に行くのは楽しいと思いますか



33

学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか

